

SERI NEWS RELEASE

平成 24 年 8 月 24 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

第 35 回

「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 24 年 7 月)

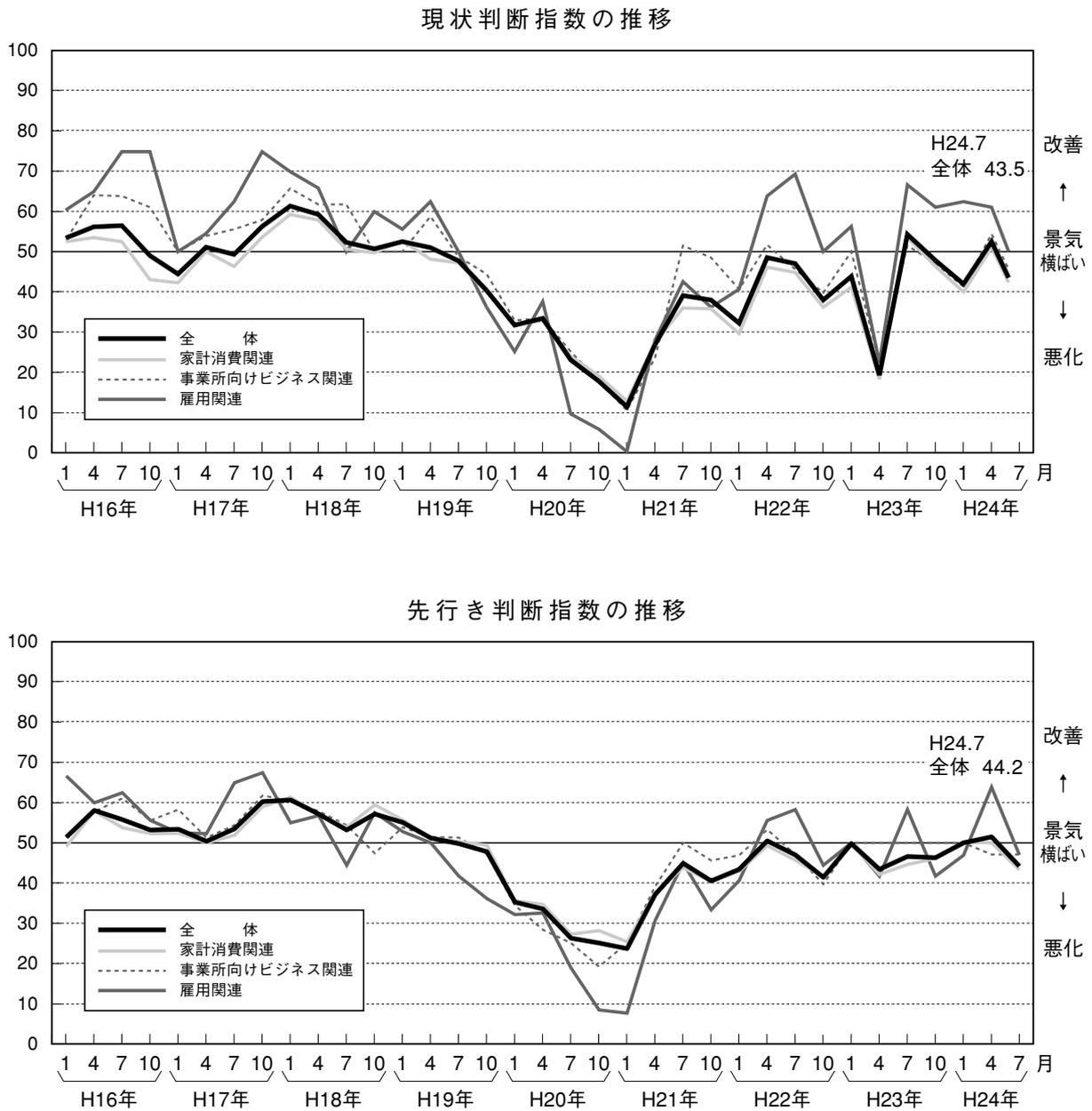
～足元景気は再び後退、景気回復には時間を要する模様～

- 平成 24 年 7 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、県内景気の「現状判断指数（方向性）」は 43.5 と、前回 4 月調査（52.5）比で Δ 9.0 ポイント下回り、景気横ばいを示す「50」を 2 期ぶりに下回る「悪化」判断となった。
- また、2～3 カ月先の「先行き判断指数（方向性）」は 44.2 と、前回 4 月調査（51.5）比で Δ 7.3 ポイント低下し、先行きを不安視する向きが再び強まった。国内外の政治・経済情勢に対する慢性的な不安感に加えて、電気料金の値上げや消費税増税など、消費者の購買意欲を大きく冷え込ませる要因が多く、静岡県内の景気回復には時間がかかるものと見られる。

担当：岩本真弥・山本愛里

足元景気は再び後退、 景気回復には時間を要する模様

図表1 現状判断指数(D.I.)と先行き判断指数(D.I.)の推移



D.I.は50が「景気横ばい」、上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示す

総合判断

現状判断は再び後退、先行き判断も不安感増す

平成24年7月調査では、現状判断指数は前回調査(52.5)から△9.0ポイント低下し43.5と、景気横ばいを示す「50」を2期ぶりに下回り、ウォッチャーは静岡県内の景気が3カ月前と比べ悪化していると判断した(図表1、2)。また、先行き判断指数も44.2と前回調査(51.5)から△7.3ポイント低下し、先行きを不安視する向きが再び強まっている(図表1、3)。

現状判断指数が低下したのは、家計消費関連、事業所向けビジネス関連、雇用関連のすべてが前回より悪化しているためで、特に、求人数が伸びない雇用関連が△11.1ポイントと大幅に低下した。また、先行き判断指数が低下した背景には、長引く円高による輸出企業の業績悪化などをを受けて消費マインドの冷え込みが続く中で、消費税増税が決まり、またエコカー補助金の終了が目前に迫ったことで、小売や生産活動にブレーキがかかる懸念が高まり、家計消費関連、雇用関連の指数が大きく悪化したことがある。

調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象：家計消費、事業所向けビジネス、雇用など、経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者。

分野	ウォッチャーの代表的な業種
家計消費関連 (n=78)	
小売関連 (n=31)	百貨店、スーパー、乗用車販売、書籍販売 など
飲食関連 (n=11)	飲食店、割烹、外食チェーン など
サービス関連 (n=28)	観光ホテル、旅行代理店、カルチャーセンター など
住宅関連 (n=8)	不動産販売、住宅販売、住宅展示場 など
事業所向けビジネス関連 (n=17)	印刷、広告代理店、運輸、司法書士、情報サービス など
雇用関連 (n=9)	人材派遣、職業紹介、求人情報誌 など

- (3) 調査方法：各企業の担当者に対するアンケート調査
- (4) 調査事項：①現在の景気の水準について
②景気の現状に対する判断(3カ月前との比較)
③その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など(自由回答)
④景気の先行きに対する判断(2～3カ月先の予想)
- (5) 調査時点：平成24年7月下旬
- (6) 回答状況：調査対象109名のうち、有効回答を寄せていただいた方は104名で、有効回答率は95.4%である。

*景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化(下表)し、それらに各判断の構成比(%)を乗じて指数(D.I.)化したものである。これにより、判断指数(方向性)においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評価	現在の景気 (水準判断)	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い
	現状判断		良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている
先行き判断		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
点数		+1	+0.75	+0.5	+0.25	0